



ミニかわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

〒124-0012

東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル

TEL : 03-3694-6091 FAX : 03-3691-6680

国内銀行111行の3月期の預貸率は65.7%

東京商工リサーチが今年6月10日に発表した「国内銀行111行の2019年3月期単独決算の預貸率調査」結果によりますと、国内銀行111行の2019年3月期の預貸率は65.7%（前年同期65.2%）でした。預貸率は、2010年3月期以降、9年連続で低下していましたが、2019年3月期は10年ぶりに前年同期を上回りました。預貸率は、銀行預金の運用状況を示す経営指標の一つで、預金残高に対する貸出残高の比率です。

2009年3月期は貸出金が前年同期比4.3%増、預金が同2.1%増と、伸び率は貸出金が預金を上回りました。しかし、リーマン・ショック後は中小企業の資金繰りが悪化し、2009年12月に中小企業等金融円滑化法が施行されました。これに伴い、金融機関の貸出は伸び悩み、伸び率は預金が貸出金を上回る状態が続いていました。2019年3月期は貸出金の伸び率が前年同期比5.0%増に対し、預金は同4.1%増で、貸出金が0.9ポイント上回りました。

111行のうち、預貸率が前年同期を上回ったのは82行（構成比73.8%）で、前年同期（45行）から37行増えました。預貸率の伸び率の最高は、「熊本銀行」の17.1ポイント上昇（90.9→108.0%）で、貸出金（前年同期比16.7%増）を伸ばす一方、預金（同1.8%減）が減少し預貸率が大幅に上昇しました。次いで、「スルガ銀行」12.2ポイント上昇、「十八銀行」8.2ポイント上昇の順でした。

業態別の預貸率は、大手銀行が58.4%（前年同期58.1%、前年同期比0.3ポイント上昇）、地方銀行が75.4%（同73.9%、同1.5ポイント上昇）、第二地銀が77.2%（同76.2%、同1.0ポイント上昇）と、全業態で前年同期を上回りました。預貸率が前年同期を上回ったのは、大手行で7行のうち3行、地方銀行で64行のうち50行、第二地銀で40行のうち29行、計82行と全体の約7割（構成比73.8%）を占めました。

銀行の本店所在地別にみた預貸率は、全国10地区で前年同期を上回りました。最高は「九州」の82.6%（前年同期79.3%）、次いで、「中部」77.2%（同75.5%）、「中国」76.9%（同75.1%）、「北海道」75.5%（同74.9%）、「近畿」73.8%（同73.2%）の順で最低は「東京」の58.2%（同57.9%）でした。伸び率は、「九州」の前年同期比3.3ポイント増が最高で、次いで、「中国」の同1.8ポイント増と続きます。

* 詳細はこちらからご確認いただけます。

国内銀行111行「2019年3月期単独決算・預貸率」調査について

（東京商工リサーチ 令和元年6月10日）

http://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20190610_02.html